新町会議員

議長　川崎一幸
副議長　浜本喜楽

津奈木

発行所
津奈木公民館
芦北郡津奈木町
電話　（代表115番）
編集人　岡松　壮
印刷所　緒方印刷所
八代市通町
電話（八代）② 3117番

ゆたかな町に 住みよい町に

議会議長　川崎一幸

津奈木町長　鶴田宣尊

このたび栄えあるこの当選、おめでとうございます。

こんどの選挙はひじょうに紳士的で、演説をきいていても、よく町の実態をつかんで、町発展をはかって他町に追いつき追いこそうとの気はくがみなぎっていて、そのご誠意に拍手をおしまなかったのであります。

ゆたかなよいところがあります反面、郡中最貧弱町でありまして、わたくしたちも一刻もはやくその汚名をぬけだそうと長期計画をたて、前議会でもご承認をうけ、その達成に一生けんめいであります。

新議員のみなさんもこの主旨をうけ、ひきつづきご協力くださるよう切にお願いいたします。

沢田新知事も熊本県の後進性をぬけ出そうと、積極的に県政にとりくんでいることは、存じのとおりであります。津奈木町もまったくそのとおりでありまして、みなさんのご協力にまつところ大なるものがあります。

選挙中お示しになった方針はすなわち町民の同意と期待をもつものでありまして、任期中には、何とかして実現し、ほがらかな町にしていただきたいものであります。私たちも全心全霊をかたむけ誠心誠意をもって前進いたします所存であります。

どうぞ、いたらぬところはこべんだつ願い、よいところは協力願い、議会と執行部とが一丸となって町発展ができますようお願いいたしまして歓迎のごあいさつといたします。

不肖の私、今期四年間名誉ある本町議会を主宰することになりました。

名議長福村氏のあとだけに、ゆきとどかないところが多かろうと思いますが、町民のみなさまのご指導ご鞭撻と、議員諸公の、真のご協力を唯一のよりどころとして、がんばってみたいと思います。

現在、津奈木が当面する諸問題のなかで、町長がいつも叫んでいる①財政の確立②過疎対策をふまえての工場誘致③総合農政を視点とした農政の位置づけなど。

これらは、町民積年の懸案であり、早急な解決をせまられている問題ではありますが、どれをみても生やさしいものではありません。執行部と議会は車の両輪にたとえられますが、チグハグの回転ではこうした難問題の解決はできません。議会は前輪起動の理で、しかも前向きで前進したいと思います。さいわい議会は老練、新人の調和のとれた構成で、一人一人が町民の選長として、新たな覚悟で町政への意欲をもやしております。

議長たる不肖私も議会運営その他公事諸般にわたっては、常に中庸を旨とし、公正な立場から意見を調整し、執行部の仕事がやり易いように努力したいと思います。

ここに議長就任のご挨拶を申しあげますと共に、町民のみなさまのご協力をお願いいたします。

なお、議会に対するご提言その他必要なことがらについては、直接又は議会事務局を通じてお申し越し下さい。

常任委員

▽総務常任委員（◎長　○副）
◎山崎　好　○永田　肇
諫山繁敏　川崎一幸
沢井武市　野島正行

▽教育厚生常任委員
◎山口享子　○伊藤嘉次郎
山崎春実　長浜　一郎
浜本喜楽

▽土木産業常任委員
◎諫山保澄　○福田正住
原田繁信　浜田荘平
寺本一喜

映画

子供会、婦人会、PTA、青年団、老人会、その他

映画を希望されますと、いつでもお世話します。

一、種類―例えば子供のしつけ

二、期日・場所

を知らせてもらえば、機械を持ってうかがいます。

婚姻届

婚姻届は式の当日、届け出るよう心がけましょう。

◎愛し愛され一しょになって世間でいえば夫婦でも届け出しなけりゃ只の仲

◎婚姻の届けすませてハネムーン

◎ハネムーン何はさておき戸籍入れ

わたしたちの先生

あなたのお子さまの担任の先生をご存じですか。担任の先生を知らないようでは、ほんとうの子供の教育はできないと思います。そういういみから写真でお見しり願い、道であったらおたがいに、少なくともえしゃくなりとかわしてもらいたいものであります。

津奈木小学校

上右から　小西先生　四の一
緒方先生　四の二
椎葉先生　五の一
競　先生　五の二
宮島先生　六の一
塚本先生　六の二

中右から　井上先生　一の一
山田先生　一の二
春木先生　二の一
安武先生　二の二
亀崎先生　特殊
大堂先生　三の一
上田先生　三の二

下右から　鶴野先生　養護
脇坂先生　庶務
竹内校長
小島教頭
斉藤先生　理科

津南中学校

上右から　乙益先生　一・二英
古川先生　庶務会計
鵜木先生　二社
松村先生　特殊
西　先生　一・二国
広松先生　一理数
千々岩先生　一社国

中右から　吉田先生　一・三美
林田先生　特殊
矢田先生　三英
寺尾先生　一・三体
野田先生　養護
川上先生　二・三家
浦本先生　二・三音
前田和先生　一・二数

下右から　岩崎先生　三理一数
中田先生　三社一英
柳迫先生　二国
明石教頭　三・技
山下校長
山下照先生　二理・技
松田先生　一・二体
前田卓先生　三数

平国小学校

上右から　北里先生　一年
北田先生　三年
宮崎先生　四年
岩本先生　二年
平野先生　庁務

下右から　坂井先生　六年
山下教頭
米村校長
米岡先生　五年

赤崎小学校

上右から　角口先生　六年
田川先生　四年
千々岩先生　五年
川上先生　庁務

下右から　松本先生　二年
前田先生　三年
堀尾校長
酒井教頭
鶴田先生　一年

字つくりの答
(1)親 (2)花 (3)紫 (4)銅
(5)鳥 (6)命 (7)蚊 (8)朝

"子が親を教育する"では！

「うちの子にかぎってそんなことはないはずです。」とたいていの親さんがいわれる。当然のことです。毎日、わが子よかれかしと願っているのですから。

ところが、子供は親が願っているようにはならないものです。

親のもとでは善良なる子であっても、外に出たら何をしているかわかりません。

そこに「絶対に私の子にかぎって悪いことはいたしません」といい切ることのできない弱味があるからです。

もし、次のことをたしかめられた後なら信頼性がありましょう。

一、よその家に泊ることはないか。
二、夜、外出することはないか。
三、日曜など休みに、しばしば友達と遊びに出かけることはないか。
四、勉強部屋に引きこもっている間は、勉強ばかりしているだろうかを、時には見てみる。
五、お金の使い方＝お小使いをやった以上の物を持ってはいないか。
六、「誰さんからもらった」という物は深くせんさくしてみたか。
七、学校での生活をいつも担任の先生と連絡をとる。
八、家庭での生活が急に変った時には、おかしいと思ったことはありませんか。

誰かがいいました。「このころは子が親を教育している」と、聞きすてならぬことばであります。負うた子に教えられるといいますが、悪い方向に、親を引っぱっていて、「うちのおやじはわかってる」とかげで笑っています。

国民道徳憲章抜すい

熊本日日新聞社選定

○正義を愛し、誠実と勇気と忍耐をもって事にあたり、それについて責任をもとう。
○知性を高め、礼節をたっとび、恩義を感じ、友情を深め、希望にみちた毎日をおくろう。
○親は子の人格をみとめ、慈愛をもって導き、子は親の恩愛に感謝し、孝養をつくそう。
○一家むつみあい、祖先をうやまおう。
○公徳を重んじ、利己利他の調和をはかり、住みよい社会をつくろう。
○勤労をたっとび、創意工夫につとめ社会生活の向上につとめよう。
○日本人としての自覚をもって天皇を敬愛し、民族の歴史と伝統をたっとび、道義国家の建設につとめよう。
○日本人の自覚をもって、国土を愛し、国法を守ろう。

自動車でどこが一等席か

一等席は運転手のうしろの窓ぎわ
二等席はその反対がわの窓ぎわ
三等席はまん中
四等席は運転手列の窓ぎわ
五等席は運転手のとなり

目上の人と二人なら当然目上の人が一番若ければ、最初の人が乗ったつぎに「失礼します」といってまん中にすわる。あるいは助手席があいていたら、そこに乗ってもさしつかえない。

勲五等瑞宝章

斉藤亀齢氏

去る四月十二日、永い間の教育のためつくされたる功績に対し、勲五等瑞宝章に叙せられ、東京国立劇場で文部大臣から伝達された。引続き一同宮中豊明殿に伺候し、親しく陛下より「教育文化学術につくして有難う。健康に注意して国のためになってもらいたい」とお言葉があった。伝達式賜謁ともに奥さんとご一しょであったと。

オレは荒滝五大夫だ

林田義人

おれが小さいころ魚の番をさせられたことがある。隣りにスバシコイ山猫がいて、これまでもくわえて逃げられたことがある。

「すり鉢に入れて蓋はしておいたばってん、隣りの猫んっでよう番をしとれ」と、いって母は出て行った。おれは腹ばいになり、あごを手の上にのせてすり鉢の方をにらんでいると、案のじょう隣りの黒が四方に注意しながら用心して、すり鉢の方に近よってくる。おれは猫がどうして魚をとるかよく見ていた。猫は切り板から、はみ出ていた魚の尻っぽをくわえるが早いか板をガタンと音させて眼をギラギラさせて逃げて行った。おれは立ち上って追っていこうかと思ったが、面倒だったので止めた。後で母からうんと叱られた。

「雨ン降ったぜば、干物ば入れとけ」といわれて、雨に入れなかったので、そんときも叱られてたたかれた。（一六一号参照）

×××××

麦秋はとくにいそがしい。とうとうおれも麦刈りに引き出された。腕を組んで立っていると母が「麦をいなえ」といった。

おれは一把一把ではとと面倒と家に帰り帆柱にする材木があったので、それを持ってきて、何把も何把もくくりつけ一ぺんにいなって帰った。その時のを脱穀したら四俵あったと母がいった。

十五歳のころだった。庭で風呂に入っていた母が外から、けたたましく呼ぶので見ると「傘をもって来い」というのである。空が真黒になって大きい雨粒が落ちている。オイソレと傘も見つからなかったので、はだしでとび出し、母のは入っている風呂桶ことひっかかえて小屋になおした。その時は、おれの着物もじっくりぬれた。

×××××

オレが相撲界に入るようになったきっかけはこんなことがあってからのことである。

やはり十五歳のときのことである。父につれられて船で八代に行った。そしたら船着場で小さい石を西・五人でもてあましている。あの位の石になぶられているかと思うとおかしくて、笑ったのが聞えたのだろう。一人がこわい顔しておれの方をにらみながらやってきて、「おれたちを笑ったのは貴様か！小賢なーお前出来るかやって見ろ。とえらい見幕である。父親はオロオロして「かんにんしてやって下さい。子供のいうたことですからお見のがしを」と平あやまりにあやまる。じかし「父アん心配しなはんな、あぎゃんたわけはなか」といったが、なお父はこんな仲仕にかかりあえばえらいことになると心配する。おれは四人位が手むかっても自信があったので「やれというならやる」とくだんの石をかかえて上にさし上げ、地面にたたきつけたら、多少力があまって、石が土の中にメリ込んで頭だけ出している。

これにはぎしもの仲仕もおどろき入り、目を丸くしてあとは何にもいわなくて引き下がった。

後で聞いたが「あの石を掘り出すにはふぐえめにあいましたばい」と昨日、仲仕連中が笑っていた。

（つづく）

文芸

短歌　鶴田和子

◎年ごとに渡ってくらわるる赤尼島
護るすべなきかとげきもみつめる
◎大型の運転台より下りてきて
なつかしくことばかくる教え子
◎十五年ぶりに逢う教え子はたくましく
されどほほえみ今も変らず

岩見会狂句　（順不同）

◎はちげんくり昔を知らんばしの
こう　わらび
◎はちげんくりもっこの町ぢァ通
どらん　わらび
◎じんべんに酒に手振って戻らし
た　わらび
◎じんべんに嫁になりてのあった
ばい　貞夫
◎はちげんくり知らんふうして聞
いとれば　貞夫
◎はちげんくり人の話もおっ取っ
て　拙者
◎はちげんくり飲ました後がざま
の無ア　拙者
◎はちげんくりひっこみつかん事
云うて　三澄
◎はちげんくりそろも商売道具ば
な　三澄
◎じんべんにはちげんくらすに戻
らした　三澄
◎はちげんくり一回戦で名の消え
た　潮上
◎はちげんくりちっと病気のまじ
っとる　潮上
◎はちげんくり今日も休調の悪る
かちゅう　潮上
◎じんべんにドラ息子から贈り物
ね　吞牛
◎はちげんくり佐藤は僕を頼っと
る　双岳
◎はちげんくり誰アれも信用しな
はらん　双岳

次題

「こらこら」「犬と猿」
二題で五句　六月末まで

青年団事業計画

4月　役員会　座談会
5月　県大会
6月　バレーボール大会、郡リーダー研修会
7月　郡総合青年祭
8月　夏期キャンプ研修会　盆踊　九州青年祭
9月　県総合青年祭　産業文化祭
10月　フォークダンス講習会　町民体育祭
11月　郡ハイキング　青年の家研修会
12月　クリスマスパーティー　県青年問題研修会
1月　成人式　県女子部総会　県活動家研修会
2月　郡活動家養成研修会
3月　総会

私たちはこんな勉強をします

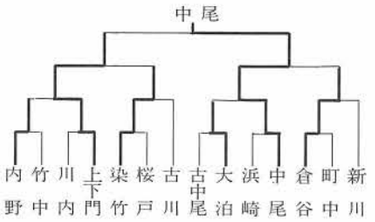
〈女子青年学級年間計画〉

月	学習事項 午前	学習事項 午後	備考
6	農繁期の料理	女子青年の在り方	講師
7	夏バテを防ぐ料理	「美」の研究	講師
8	キャンプ	キャンプ	郡のに参加
9	青年団産業文化祭	バザー	手芸品など出品陳列
10	秋の農繁期の料理	老人ホームの慰問	舞踊など練習しておく
11	おにぎりの作り方	ハイキング（男青年と交かん会）	助言者
12	お正月料理	婦人会との座談会	助言者
1	つまみの作り方	男青年との座談会	助言者
2	漬けもの	衛生（映画による学習）	助言者
3	洋食マナー	一年間の反省	助言者

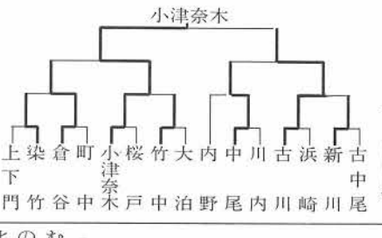
戦いのあと

一、相撲（四月十二日）
1位　大泊　一〇点
2〃　内野　九〃
3〃　染竹　八〃
4〃　中尾　七〃
5〃　浜崎　六〃
〃　倉谷　六〃

二、バレーボール（5月16日）



三、ソフトボール（5月16日）



婿不足　嫁不足

昭和十八年（戦争中）の出生数は二三五万人であったのが、昭和二十二年（終戦後）には、二六八万人と、実に四〇万以上の増加となった。

この、二六八万人たちが成長して、今日では、結婚して子を産もうとしている。

したがって、昭和二十二年の結婚ブームとベビーブームと同じように、昭和四十七年から第二の結婚・出生ブームがくることになる。

この予想される第二の結婚ブームは、ただならぬ異変が起りそうである。

昭和四十三年の平均初婚年令は男二十七歳、女二十四歳と三つ差となっている。

ところがである。来年の昭和四十七年になると、二十四歳の女子（結婚平均年）は一九万人であるのに対し、三歳年上の男子二十七歳の数は七六万人で、差引四三万人の男不足となり、女二人に男

○・六五の割となる。

昭和二十二年ごろから急激に増加した出生も、二十五、六年ごろから急激に出生がガタ落ちしてこんどは昭和五十年ごろには、男子不足から女子不足に変わってくることになる。（総理府の「時の動き」三月号より）

各種団体役員

一、連合青年団
団長　堀井安弘
副団長　岡本義朝　林田直美
事務局◎上原良一○山下照子
産業部◎森下博明○西平エミ子
体育部◎山路英樹○坂本満子
文化部◎柳迫　貫○宮島鈴子
女子部◎川上好子○浜田早由美
監事　前田尚美
支部長　柏木孝志（小津奈木）堀井　薫（倉谷）林田和幸（千代）柳迫幸（大泊）村上義行（平国）上村幸一（赤崎）

二、婦人会
校区別　会長　副
津奈木　岡松カキ　成田チエ子
鶴田ヨシ子
斉藤アツ子
赤崎　尼花ミツノ　吉野ヒサエ
松田マスエ
津々木チエノ
長浜サチ
平国　平野シエ

三、PTA
津奈木　磯見勝次　芦浦三郎
千々岩マサ子
赤崎　篠原保親　篠原　豊
岩崎義任
浜田益行
平国　福田一任
野崎久子
津南中　松本知義　寺本一喜
林田輝幸
野崎　勲
松本チホ

丁度とは百のことか!?

「東海道膝栗毛」より

（金をぬすまれた北八は、侍（さむらい）に巾着を買ってくれとたのむ。

北「ハイ、三百くらいで差上げましょう」
侍「それは高い、六十文つかわそう」
北「それはあんまりでござりますもうちっと…」
侍「しからば六十一文つかわそうか」
「もちっと高く」「いや…」の問答がつづく。
北「こういたしましょう。丁度にお買いなさってください」
侍「丁度とはなんぼじゃ」
北「百文でござります」
侍「なに！、百のことを丁度というのか」
……
侍「ときにお前はいくつじゃ」
北「旦那あてなさってろうじませ」
侍「ムウ、二十七、八か」
北「イエ丁度でござります」
侍「ナニ丁度…、アノ百か」
北「イヤ（と指三本出して）これでございます」
侍「ハア三百には若を男だ」

字っくり

答は四面

(1)立木のそばで見ている人は？
(2)草の化けたものは？
(3)此の糸は何色か？
(4)金ではないが金と同じものは？
(5)鳥であって鳥でない鳥は？
(6)AOPからできている漢字は？
(7)ブンブンと鳴く虫は？
(8)十月十日を一字にすれば？

―お礼―

一、次の方々から香典返しとして町社協に金一封のご寄付いただきました。

部落　世帯主　続柄　死亡者
上下門　後藤アサ　夫　総市

二、「恵まれない人のため」にと、長浜学氏より、金一封を社協に。（これより毎月寄付されることになっている。）

三、「交通安全施設整備」のためにと、高見宣男氏より金一封

以上の方々に厚く御礼申し上げます。